



梅田墓地のはなし

「暑さ寒さも彼岸まで」今月半ばはそのお彼岸ですが、ご先祖さまへの感謝にとお墓参りに行かれる方も多いのではないのでしょうか。

そんなお墓について、先月ニュースにもなりましたが、大阪市北区大深町の、通称「うめきた」と呼ばれる再開発地域の第二期区画での発掘調査で、たくさんのお骨が出てきたと話題になりました。

あの辺りは近世までは、「梅田墓地」または「梅田墓」「梅田三昧」「梅田墓所」などとも呼ばれる広大な墓地で、『撰陽群談』等の史料によれば、その開基は、奈良時代の僧、行基が聖武天皇の勅を以て造営を發願し、行基亡きあと天平勝宝四年(七五二)の東大寺の大仏の開眼供養が行われた時に墓地として開かれた事が始まりとされています。

近くの南浜墓地も同じく行基の開基であり、この付近は古代には海浜に近く、塩気の強い湿地帯であった事から、墓地ぐらいいにしか土地の活用法が無かったのかもしれない。

その後、江戸時代に入り天満地域や北野村などに散在していた墓地を、曾根崎村の下原(したばら)現在の大阪駅前第二ビル南辺りと呼ばれる地域にまとめ、大阪七墓の一つ「梅田墓地」として整備します。しかし市街化が進み、火葬の煙が嫌がられるようになって、貞享年中(一六八八年頃)に墓地を大深町のあたりに移転し、そのまま幕末まで墓地として用いられました。

明治に入って、梅田墓地の付近に大阪駅が建設され、少し遅れて梅田貨物駅が整備されるに当たって、梅田墓地のお墓の多くは移転されましたが、無縁仏などの縁者不明のお墓については、そのまま地中に埋め残され、そして百五十年ほど経った今、再び掘り起こされたという流れです。

この発掘に従事された方の話によると、幕末のお骨が多く、コレラや天然痘などの疫病で大勢の方が一度に亡くなった可能性があるとみられ、また湿地帯であった事が幸いして、遺物の状態が大変良いとの事でした。今後、幕末の梅田界隈の歴史を紐解く中でも重要な史料となりそうです。

このコロナ禍の中、同じく疫病に苦しまれた先人の事を思うと、御霊のご平安をお祈りすると共に、現今の疫難をどうかお見守り下さいと願い、合掌せずにはいられません。

※お骨については過去の発掘例に倣って、調査研究の後には丁寧に追悼の儀を執り行い、改葬される予定との事です。

御旅社器物損壊被害について

先月、何者かにより茶屋町の御旅社の鳥居ライトアップ用の照明や掲示板、賽銭箱などの器物が壊される事件がございました。その為、先月から鳥居のライトアップは中止せざるを得なくなっております。

近頃はコロナ禍などで鬱屈したイライラを内在した方が多くなってきたように感じられます。当宮での被害のようになり散らす人も出やすくなり、誰しも被害者になりかねません。イライラして暴言や、乱暴な行動に出してしまう前に、「自分は本当はどうしたかったのか」、そうした自分の本当の心と向き合う事が大切になります。一人一人がイライラと上手に向き合って、このコロナ禍から人災を生み出さないよう、努めたいものです。

今月の暦

【祭祀】北野祭 遙拝式(四日)：京都北野天満宮例祭を遙拝 嵯峨天皇御降誕祭(七日)：嵯峨天皇さまの誕生当日

【節供】重陽の節句(九日)：五節句の一つ。長寿祈念。

【節気】白露(七日)：大気が冷え始め、降りた露が白く光る頃 秋分(廿二日)：昼夜等分の候。秋風が訪れる頃

【雑節】八朔(十七日)：旧暦の八月一日。田の実の節句。 秋の彼岸(九月十九日～九月二十五日) お墓参り 秋の社日(十八日)：産土神を詣でる。ポケ封じ 中秋の名月(今年十月一日)：秋のお月見

【大安】九月四日、十日、十六日、廿日、廿六日

【祝日】敬老の日(廿一日) 秋分の日(廿二日)

【朔望】満月(二日)、下弦(十日)、朔月(十七日)、上弦(廿四日)

【旬】【野菜】秋ナス、蓮根、日本南瓜、里芋、ずいき 【果物】柿、梨、葡萄、ザクロ

【魚介類】秋刀魚、カレイ、カタクチイワシ 【その他】秋の七草、秋の夜長、スズムシ

雑感

先月初旬は大変な大雨で、九州を中心に各地で多くの被害が出ました。被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます。二年前にも西日本では大変な豪雨に見舞われ、当宮七夕祭も宵宮は中止せざるを得ませんでした。そして今月は台風の時節です。雨に加えて暴風の被害にもどうぞお気を付け下さいませ。

網敷天神社SNS、地図サイト

Twitter, Facebook, 当宮地図 Google MAP

編著 網敷天神社 禰宜(御旅社 神主) 白江 秀 知

